

看護学研究科ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

看護学研究科では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、目指す人材像の育成を図り、本学学則に定める修了要件を満たした学生を、次に掲げる「学生が修了までに身につけるべき能力」を備えたものとして、博士前期課程にあっては学位『修士（看護学）』、博士後期課程にあっては『博士（看護学）』を授与します。

▼目指す人材像

＜博士前期課程＞

1. 看護実践者として、保健医療福祉チームの一員として、専門性の高い看護実践と教育研究を重ね看護学の進歩に貢献できる人材
2. 看護管理者として、現場でのマネジメントの遂行、先進技術の導入や業務・管理体制の構築、さらに地域の保健医療活動の充実を図ることができる人材
3. 看護教育者として、医療の進歩や看護ニーズの多様化に対応した看護教育の充実を図ることができる人材
4. 看護研究者として、看護学の理論に基づいた看護実践の分析や研究成果を実践に活かすことができる人材

＜博士後期課程＞

1. 保健医療の現場で求められる看護ニーズに基づく専門的な研究を、自律して計画し遂行し、看護学の進歩に貢献できる人材
2. 専門分野の研究成果を踏まえた教育を行い、高度な看護専門職育成に貢献できる人材
3. 看護チームの中でリーダーシップを発揮し、関係職種との協働を通して保健医療の質を高めていける人材
4. 社会のニーズを的確に捉え、保健福祉政策に組み込んでいくことができる人材

▼学生が修了までに身につけるべき能力

＜博士前期課程＞

- DP1 看護学の理論に基づき、看護実践を分析し、記述することができる。
- DP2 独創性や発展可能性のある学術的に有用な看護学研究を行うことができる。
- DP3 看護専門職としての看護実践能力・教育力・研究力・管理能力を養うことができる。

＜博士後期課程＞

- DP1 独創性や発展性のある学術的に有用な看護学研究を自律して行うことができる。
- DP2 看護専門職としての高い教育力・研究力・管理能力・看護実践能力を養うことができる。
- DP3 新しい看護学の理論構築や看護方法・技術の開発を通して、看護学の知識の蓄積・体系化に寄与できる。

看護学研究科カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<博士前期課程>

看護学研究科博士前期課程は、修士論文コースと高度実践看護師（専門看護師）コースを有します。

修士論文コースは4つの科目群、専門看護師コースは5つの科目群で構成され、ディプロマ・ポリシーで掲げられた能力を育成するための科目が配置されています。高度実践看護師（専門看護師）コースは、慢性疾患看護、がん看護の2分野について日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程基準に基づく教育課程の認定を受けています。

- CP1 共通必修科目は、看護学研究における様々な研究方法を学びます。
- CP2 共通選択科目は、幅広い視野から専門分野を理解する能力を身に付けることを目指します。なお、高度実践専門看護師（専門看護師）コースではケアとキュアの統合による高度な看護学の知識技術を学ぶことを目指します。
- CP3 専門分野選択科目は、専攻する分野の特論において、専門分野の理論や背景を学んだ上で、現在の看護実践に対する理解を深め、その分野における看護の課題と解決方法について学びます。
- CP4 研究指導科目のうち、演習科目では、特論科目での学修をもとに実践を振り返り、自身の研究課題を焦点化することを目指します。なお、高度実践専門看護師（専門看護師）コースでは、演習科目は専門分野選択科目に位置し、実践・教育を中心に高度な看護実践能力を養うことを目指します。
- CP5 研究指導科目のうち、看護学研究では、専門分野の研究をクリティークした上で、リサーチクエスチョンに基づき研究を遂行し、修士論文を作成します。なお、高度実践専門看護師（専門看護師）コースでは、専門看護師の役割のうち研究の能力を修得するために、課題研究または修士論文を作成します。
- CP6 高度実践専門看護師（専門看護師）コースでは、実習科目において実践・相談・調整・倫理調整・教育の5つの役割の修得を目指します。

1年次の目標

看護学の理論を理解し、看護学研究を実施する基礎的能力を養う。

2年次以降の目標

看護学研究を通して、看護専門職としての能力を身に付ける。

<博士後期課程>

看護学研究科博士後期課程は、2つの科目群で構成され、ディプロマ・ポリシーで掲げられた能力を育成するための科目が配置されています。

- CP1 専門分野選択科目は、専攻する分野の特論において、最先端の看護について学ぶとともに、主体的に考え、看護学の発展に寄与できる能力を身に付けることを目指します。
- CP2 研究指導科目は、専攻する分野の特別研究において、学術的に有用な看護学研究を行うために必要な、研究課題に関する背景を理解し、関連する分野の研究をクリティークした上で、リサーチクエスチョンに基づき自律して研究を遂行し、博士論文を作成します。

1年次の目標

総合的・学際的に看護学の発展に寄与できる看護研究計画を立案できる。

2年次以降の目標

熟達した看護研究手法を用いて、自律して研究を遂行し、研究成果を発信できる。

ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3
学 年		看護学の理論に基づき、看護実践を分析し、記述することができる。	独創性や発展可能性のある学術的に有用な看護学研究を行うことができる。	看護専門職としての看護実践能力・教育力・研究力・管理能力を養うことができる。
1 年次 年次目標 看護学の理論を理解し、看護学研究を実施する基礎的能力を養う。	前期	専門分野選択科目 - 看護実証病態学特論 - 看護援助学特論 - 看護相談援助特論 - 看護管理学特論 - 看護情報学特論 慢性看護学特論 I 慢性看護学特論 IV がん病態生理学 がん看護学特論 共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆看護倫理 ◆統計学特論 ◆病態解析論 ◆看護教育学 母性看護学特論 小児発達看護学特論 学校保健看護学特論 成人看護学特論 老年看護学特論 フィジカルアセスメント 地域保健看護学特論 在宅看護学特論 精神保健看護学特論 病態生理学	共通必修科目 看護研究法 I	研究指導科目 成人看護学演習 I 成人看護学演習 II
	後期	専門分野選択科目 - 臨床病態機能論 - 看護実践実証論 - 看護援助実践論 - 看護感染管理論 - 看護人材育成論 慢性看護学特論 II 慢性看護学特論 III 慢性看護学特論 V がん看護援助論 慢性看護学特論 II 演習 慢性看護学特論 III 演習 A 慢性看護学特論 III 演習 B 女性健康看護学特論 小児看護学特論 学校保健看護活動論 がん看護学演習 I (がん薬物療法看護) がん看護学演習 II (がん薬物療法援助論) がん看護学演習 III (緩和ケア I) がん看護学演習 IV (緩和ケア II) 共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆コンサルテーション論 ◆医療経済学 臨床薬理学	共通必修科目 看護研究法 II	研究指導科目 看護実証病態学演習 看護援助学演習 看護教育学演習 看護管理学演習 母性・女性健康看護学演習 小児看護学演習 学校保健看護学演習 地域保健看護学演習 在宅看護学演習 精神保健看護学演習 老年看護学演習 実習科目 がん看護学実習 I (役割) 慢性看護学実習 I 研究指導科目 成人看護学演習 III 成人看護学演習 IV
	通年	共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆看護倫理 ◆統計学特論 ◆病態解析論 ◆看護教育学 共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆コンサルテーション論 ◆医療経済学 研究指導科目 基礎・教育・管理看護学研究 母性看護学研究 成人・老年看護学研究 地域看護学研究 課題研究 (がん看護学) 課題研究 (慢性疾患看護)		実習科目 がん看護学演習 II (高度実践) 慢性看護学実習 II 慢性看護学実習 III がん看護学演習 III (緩和ケア病棟・在宅緩和ケア) 慢性看護学実習 IV
2 年次 年次目標 看護学研究の実施を通して、看護専門職としての能力を身につける。	前期	共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆看護倫理 ◆統計学特論 ◆病態解析論 ◆看護教育学		実習科目 がん看護学演習 II (高度実践) 慢性看護学実習 II 慢性看護学実習 III がん看護学演習 III (緩和ケア病棟・在宅緩和ケア) 慢性看護学実習 IV
	後期	共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆コンサルテーション論 ◆医療経済学		
	通年	研究指導科目 基礎・教育・管理看護学研究 母性看護学研究 成人・老年看護学研究 地域看護学研究 課題研究 (がん看護学) 課題研究 (慢性疾患看護)		

基礎・管理看護学領域

母性看護学領域

成人・老年看護学領域

地域看護学領域

CNS コース

ディプロマポリシー 学 年	DP1 独創性や発展性のある学術的に有用な看護学研究を自律して行うことができる。	DP2 看護専門職としての高い教育力・研究力・管理能力・看護実践能力を養うことができる。	DP3 新しい看護学の理論構築や看護方法・技術の開発を通して、看護学の知識の蓄積・体系化に寄与できる。
1 年次 年次目標 総合的・学際的に看護学の発展に寄与する看護研究計画を立案することができる。	専門分野選択科目 実証看護技術学特論 看護援助実証特論 看護管理学特論 慢性・障害看護ケア特論 応用看護情報学特論 細胞・分子生物学研究法特論 * 創傷ケア実証特論 女性健康看護学特論 地域健康看護学特論 老年健康看護学特論 小児・家族看護学特論 精神障害者 地域生活支援活動特論 学校保健看護学特論 * 健康心理学研究方法特論 「*」 後期開講科目		
2 年次 年次目標 熟達した看護研究手法を用いて、自律して研究を遂行し、研究成果を発信することができる。	研究指導科目 実証看護技術学特別研究 女性健康看護学特別研究 地域健康看護学特別研究 ◆研究計画検討会 ◆研究進捗状況中間発表会		
3 年次 年次目標 熟達した看護研究手法を用いて、自律して研究を遂行し、研究成果を発信することができる。	◆学位論文予備審査会 ◆学位論文審査会 ◆学位論文発表会		

実証看護技術学領域

女性健康看護学領域

地域健康看護学領域

ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3
学 年		看護学の理論に基づき、看護実践を分析し、記述することができる。	独創性や発展可能性のある学術的に有用な看護学研究を行うことができる。	看護専門職としての看護実践能力・教育力・研究力・管理能力を養うことができる。
1 年次 年次目標 看護学の理論を理解し、看護学研究を実施する基礎的能力を養う。	前期	専門分野選択科目 - 看護実証病態学特論 - 看護援助学特論 - 看護相談援助特論 - 看護管理学特論 - 看護情報学特論 慢性看護学特論 I 慢性看護学特論 IV がん病態生理学 がん看護学特論 共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆看護倫理 ◆統計学特論 ◆病態解析論 ◆看護教育学 母性看護学特論 小児発達看護学特論 学校保健看護学特論 成人看護学特論 老年看護学特論 フィジカルアセスメント 地域保健看護学特論 在宅看護学特論 精神保健看護学特論 共通必修科目 看護研究法 I 研究指導科目 成人看護学演習 I 成人看護学演習 II		研究指導科目 成人看護学演習 I 成人看護学演習 II
	後期	専門分野選択科目 - 臨床病態機能論 - 看護実践実証論 - 看護援助実践論 - 看護感染管理論 - 看護人材育成論 慢性看護学特論 II 慢性看護学特論 III 慢性看護学特論 V がん看護援助論 慢性看護学特論 II 演習 慢性看護学特論 III 演習 A 慢性看護学特論 III 演習 B 女性健康看護学特論 小児看護学特論 学校保健看護活動論 がん看護学演習 I (がん薬物療法看護) がん看護学演習 II (がん薬物療法援助論) がん看護学演習 III (緩和ケア I) がん看護学演習 IV (緩和ケア II) 共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆コンサルテーション論 ◆医療経済学 臨床薬理学 共通必修科目 看護研究法 II 実習科目 がん看護学実習 I (役割) 慢性看護学実習 I 研究指導科目 成人看護学演習 III 成人看護学演習 IV		研究指導科目 看護実証病態学演習 看護援助学演習 看護教育学演習 看護管理学演習 母性・女性健康看護学演習 小児看護学演習 学校保健看護学演習 地域保健看護学演習 在宅看護学演習 精神保健看護学演習 老年看護学演習 実習科目 がん看護学実習 I (役割) 慢性看護学実習 I 研究指導科目 成人看護学演習 III 成人看護学演習 IV
	通年	共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆看護倫理 ◆統計学特論 ◆病態解析論 ◆看護教育学 共通選択科目 1・2年次で選択可能 ◆コンサルテーション論 ◆医療経済学 研究指導科目 基礎・教育・管理看護学研究 母性看護学研究 成人・老年看護学研究 地域看護学研究 課題研究 (がん看護学) 課題研究 (慢性疾患看護)		実習科目 がん看護学演習 II (高度実践) 慢性看護学実習 II 慢性看護学実習 III がん看護学演習 III (緩和ケア病棟・在宅緩和ケア) 慢性看護学実習 IV

基礎・管理看護学領域

母性看護学領域

成人・老年看護学領域

地域看護学領域

CNS コース

ディプロマポリシー 学 年	DP1 独創性や発展性のある学術的に有用な看護学研究を自律して行うことができる。	DP2 看護専門職としての高い教育力・研究力・管理能力・看護実践能力を養うことができる。	DP3 新しい看護学の理論構築や看護方法・技術の開発を通して、看護学の知識の蓄積・体系化に寄与できる。
1 年次 年次目標 総合的・学際的に看護学の発展に寄与する看護研究計画を立案することができる。	専門分野選択科目 実証看護技術学特論 看護援助実証特論 看護管理学特論 慢性・障害看護ケア特論 応用看護情報学特論 細胞・分子生物学研究法特論 * 創傷ケア実証特論 女性健康看護学特論 地域健康看護学特論 老年健康看護学特論 小児・家族看護学特論 精神障害者 地域生活支援活動特論 学校保健看護学特論 * 健康心理学研究方法特論 「*」 後期開講科目		
2 年次 年次目標 熟達した看護研究手法を用いて、自律して研究を遂行し、研究成果を発信することができる。	研究指導科目 実証看護技術学特別研究 女性健康看護学特別研究 地域健康看護学特別研究 ◆研究計画検討会 ◆研究進捗状況中間発表会		
3 年次 年次目標 熟達した看護研究手法を用いて、自律して研究を遂行し、研究成果を発信することができる。	◆学位論文予備審査会 ◆学位論文審査会 ◆学位論文発表会		

実証看護技術学領域

女性健康看護学領域

地域健康看護学領域